

ようこそ!



# シュパイヤー大 聖堂

## 聖マリア聖ステ パノ大聖堂

ご案内と宗教的意  
味の解説

[www.dom-zu-speyer.de](http://www.dom-zu-speyer.de)



## ご来訪の皆さん、

シュパイヤー大聖堂は、世界最大のロマネスク様式の教会（1030年頃–1124年建築）として、美術史上大変重要なものです。文化史の観点からは、この大聖堂が、中世における皇帝の在り方を体現しているといえます。また、創建時から今日までの長きに亘り、シュパイヤーの司教座聖堂であると同時に、教区の人々のための教会、そして巡礼地としても存在してきました。そうしたことから芸術・歴史・宗教を切り離さず常に一体のものとして考えることが大切です。

この素晴らしい建造物が伝える宗教的メッセージの理解に、このしおりが少しでもお役に立てば幸いです。

私たちの歓迎の気持ちと、大聖堂でのひとときがもたらす豊かさとを、皆さんが感じてくださるよう願ってやみません。

シュパイヤー大聖堂参事会

## 1. ファサード（正面入口）

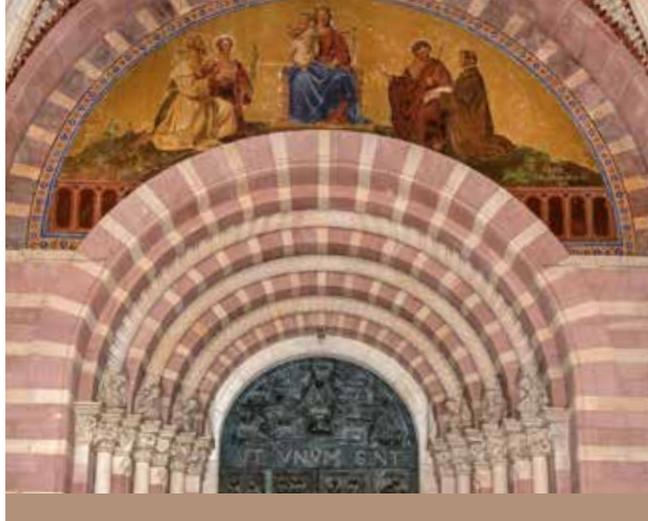
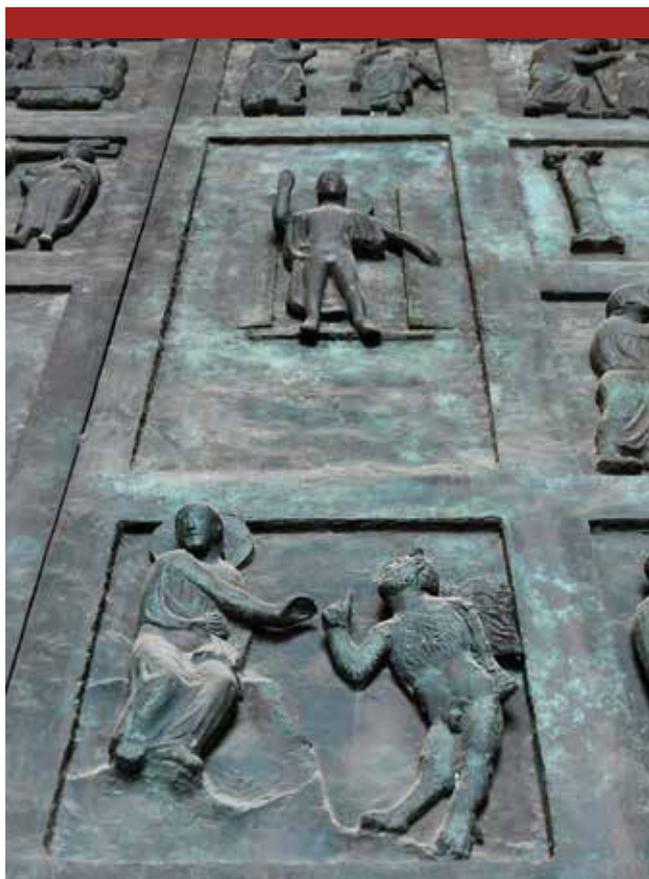


聖書の最後の書、ヨハネの黙示録には、聖なるエルサレムは東西南北にそれぞれ**3つの門**を持つ（黙示録 21:13）都であると記されています。聖なる神の都の写し絵となるべき大聖堂にも西側に3つの門があります。その中央の門の上には**5体の像**があります。左から順に：

- ・殉教者聖ステファノ、大聖堂の守護聖人
  - ・大天使ミカエル、ドイツの守護聖人
  - ・聖母マリア、この教会の主守護聖人
  - ・洗礼者ヨハネ、この大聖堂が司教区の最初の洗礼教会であったため
  - ・クレルヴォーのベルナルドゥス、中世における最も有名な訪問者
- 中央入口のさらに上には、神の世界の象徴として、円形のバラ窓があります。窓の中央には、全ての創造物の中心、そして私たちの生の目標であるイエス・キリストの姿があります。バラ窓を囲っている四角形は人間の世界の象徴です。その四隅にはそれぞれ、4人の福音書記者のシンボル（鷲、人間、獅子、牡牛）が見られ、**4つの福音書**において天の託けをこの世に知らしめた記者を表しています。

## 2. 玄関前広間

正面の3つの入り口のいずれかを通ると**西構え**の大きな広間に出ます。この西構えが城砦外壁のように西から大聖堂を護っています。中世において、西は日没すなわち闇と悪の方角とされていました。人々は西から来て、大聖堂の中を東に向かって歩みます。キリストすなわち光を目指して歩み進むうちに、全ての悪と闇を捨て去る（ローマ13:12）のです。



## 3. 扉口

玄関前広間に入る入口が3つあるのに対し、大聖堂内部へ入る入口はただ1つです。一度に大勢で玄関前広間に着いた人々も、ここから中へ入るためには、あたかもイエスが福音書の中で語っている**天への狭い門**（マタイ7:13）のように、順に一人ずつこの扉口を通らねばなりません。

厚さ約7mの壁の中に向かって幾重にも段状に縁取られた狭い入口に扉がはめ込まれ、大変印象深い造りとなっています。このアーチ型の縁取りは外側・内側に6段ずつ、合わせるとその数は完全性の象徴である12になります。

扉の上には、ヨハネ福音書にあるイエスの別れの辞からの遺言「**Ut unum sint - みんなの者が一つとなる**」（ヨハネ17:21）が刻まれています。この大聖堂は、1054年の東方教会と西方教会間の大分裂以前にできた最後の大きな教会建築ですが、結果として今日、教会の統一を願う碑でもあります。

大聖堂の扉（1971）は、聖書のことばをブロンズに鑄込んだものです。下部のブロンズレリーフは旧約聖書から、特に創世記の天地創造と伝承・原初史の説話を描いています。上部はイエスの生涯のさまざまな場面、すなわち新約聖書の内容です。訪れた人々はまずこの扉の前で、この世の起源と、救いが成し遂げられたことに思いを馳せ、それから大聖堂の中へ足を踏み入れます。



## 4. 身廊

狭い門を通り中に入ると、広大な身廊の圧倒的な光景が目の前に現れます。マインツやヴォルムスの大聖堂とは異なり、シュパイヤー大聖堂のクワイア（内陣）はただ1つです。そのため訪れた人々は必然的に前のみを向くように、東に、**光に向かって導かれる**ように、設計されています。

身廊を進んでいくと、どっしりと大きな柱の間の12のアーチが目に入ります。教会は**十二使徒**を土台として造られています（エペソ2:20）。視線をさらに上へ向けると、アーケードのアーチが2つずつ、最上部で1つのアーチの中に入っています。こうして大きな6つの曲面天井ができます。曲面天井は中世において天を象徴するものでしたが、ここに並んだ6つの天井は**天地創造の6日間**という地上の時間を表しています。

聖母マリアはこの教会の守護聖人であると同時に、この大聖堂の創建者である皇帝コンラート2世（1027年-1039年統治）のザーリア朝の守護聖人でもあります。大聖堂を訪れた人々の歩みにつき添うように、身廊の左右の窓の下には**マリアの生涯を描いた画**が並びます。

床には4つのことばが順に刻まれています。

”o clemens / o pia / o dulcis / virgo Maria”

サルヴェレジーナ（元后あわれみの母）の最後の部分です。クレルヴォーのベルナルドゥスがここを訪れた際に自ら付け加えたのがこのことばだと伝えられています。クワイアの入口で大きな**マリア像**に迎えられます。厳かな司教ミサの終わりには、必ずこの**大聖堂の守護聖人**の前で祈りを唱えます。



## 天の元后聖母マリアの祈り:

全能永遠の神よ、  
私たちのためにキリストを生んだ  
聖なる乙女のマリアを  
全ての罪から守り  
その身と魂をもって  
天の栄光へと引き上げてくださいました。  
私たちがこの希望と慰めのしるしを仰ぎ見て  
あなたの栄光へと向かう道を  
歩み続けるようお導きください。  
主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。  
アーメン

(8月15日の聖母被昇天祭の祈りより)



## 5. クロッシング（中央交差部）

身廊の奥横から側廊を通り大きな階段を上ったところが翼廊です。ここからクロッシングの中央空間がよく見えます。

上空から見ると大聖堂全体は十字架の形をしています。身廊と翼廊がちょうどぶつかるところが十字の交差部分 — クロッシングです。十字架は拷問の道具でもあります、同時に祝福と**復活のしるし**でもあります。大聖堂において十字架はキリスト者の生の空間となります。洗礼を受けてキリストと共に死に、そうしてキリストによってキリストと共にキリストのうちに神から新たな人間として生まれます。身廊の6つの曲面天井が天地創造の6日間を指すなら、それに続くひときわ高いクロッシングの天井はあたかもそこに開かれた天のようです。これは創造主が休息した7日目を象徴しています。この安息日は、神に造られた物達が創造主である神を想い安息と幸福を得るための日でもあります。

この天井は八角形をしており、この8という数字は7に1を足したものです。というのも、キリスト教の本当の安息日は、ユダヤ教の安息日（サバト）ではなく、その翌日である日曜だからです。日曜は**復活の日**、したがって救世が成し遂げられた日です。数字の8はまさにこのことを表しています。週の1日目であると同時に8日目でもあるため、キリスト教における日曜は、この世の起源と、救いが成し遂げられたこととのしるしなのです。

クロッシングの丸天井の真下にはキリストのしるしである祭壇があり、聖体の祭儀の折にはここに救いの神秘を見ることができます。

## 6. クワイヤ（内陣）とアプス



大聖堂の東端はクワイヤとアプスです。このクワイヤはアプスと共にキリスト、**教会のかしら**（エペソ1:22）を象徴しています。かしらからからだへと光と命が満ちていくように、朝の光が**東**から大聖堂の中へ射し込みます。

したがってクワイヤは教区教会の長である司教のための場所です。ここで司教は参事会と共に典礼を執り行います。

また、司教座聖堂を訪れて暗闇からキリストすなわち光のもとへ行きつこうとする人々が向かう場所でもあり、西へと伸びる**光の源**でもあります。この光は毎朝、キリストがすべてでありますすべてのうちにおられる（コロサイ3:11）その日まで、大聖堂に描かれる聖なるエルサレムを光で満たします。



## 7. クリプタ（地下聖堂）

クリプタと墓所へもご案内します。大聖堂補修維持のためのお力添えとして、クリプタを訪れる際には拝観献金をお願いしています。

クリプタは大聖堂の中で最も古い部分、大聖堂の下支えとなる礎です。赤と白の石を用いた角柱と丸柱のおりなす素晴らしいリズムとほのかな明かりが、訪れた人々を静謐へと誘います。古い**洗礼盤**のある場所の真上がクワイヤとアプスにあたります。

## 8. 墓所

現在はクリプタから直接、ザーリア朝の皇帝、ハプスブルク家、シュタウフェン家、ナッサウ家の王の墓のところまで行くことができます。この大聖堂は当初から世を治める者たちの墓所として建てられました。大聖堂で眠るという望みは信仰心からのみ生まれるわけではありません。それは**イエス・キリストの名と下命において**皇帝の務めを引き受けるのだという確たる信念の表れでもありました。1024年マインツの大司教は、ドイツ王として戴冠するコンラート2世に「あなたが地上におけるキリストの代理人である」と告げました。そして帝冠には「わたしによって王たる者は世を治める」（箴言8:15）ということばが刻まれました。中世においてこれはキリストその人「王の王、主の主」（黙示録19:16）

に他なりません。これらの墓を見ると、世を治める者たちがその務めに対してどれほどの誠意をもっていたかが想われます。彼らは人々からのみならず神からも**責任**を負っていることを自覚していました。この世を治めることは神とその意に沿ってこそ祝福される、皇帝墓所はそう語りかけてきます。

身廊の頭上には皇帝コンラート2世の帝冠の大きな複製があり、その真下にある皇帝墓所の位置を指し示しています。副葬品は近くのプファルツ歴史博物館に展示されています。

## 礼拝堂

### 9. アフラ礼拝堂



左側の側廊の端にアフラ礼拝堂があります。ここは静かな祈りの場であるため、開放されておらず見学はできません。レリーフに描き出された天使ガブリエルによるマリアへの受胎告知の素晴らしさに、受肉の始まりを思い起こします。マリアはそれを素直に受け入れ、言は肉となりました。こうしてアフラ礼拝堂は聖体の秘跡の場としてその役目を果たしています。



### 10. 二段の礼拝堂



#### マーティン礼拝堂／洗礼堂：洗礼の場

右側の側廊の端には洗礼堂があります。ここで自身の洗礼を思い出し洗礼の約束を新たにすることができます。

#### カタリーナ礼拝堂：聖遺物とゆるしの秘跡の場

右側の側廊からカタリーナ礼拝堂へ入ることができます。ここで大聖堂の聖遺物に祈りを捧げます。同時にここ — 洗礼堂の真上 — は、ゆるしの秘跡の場でもあります。キリスト者であることは洗礼の上に成り立ちます。そして神のもとへ帰りゆるしの秘跡をうけることによってキリスト者であることを新たにします。



## 11. オリーブ山

大聖堂の南側にオリーブ山の彫刻があります。かつて回廊があった頃はオリーブ山がその中心でした。今でもキリストと共に**世の救済**を祈る場となっています。

人々が自らすすんでその生のすべてを神の手に委ね、父なる神の心の通りに為す(マタイ26:42) ことができたとき初めて救いが実現する、キリストはオリーブ山の夜にそう示しました。

## 12. 皇帝の広間と塔

皇帝の広間は、大聖堂の玄関前広間の上であり、19世紀当時大聖堂の中に描かれた壁画が今はここに置かれています。ここからさらに南西塔内の展望台へ出ることができます。こちらの入場券は4月から10月まで大聖堂ビジターセンターでお求めいただけます。

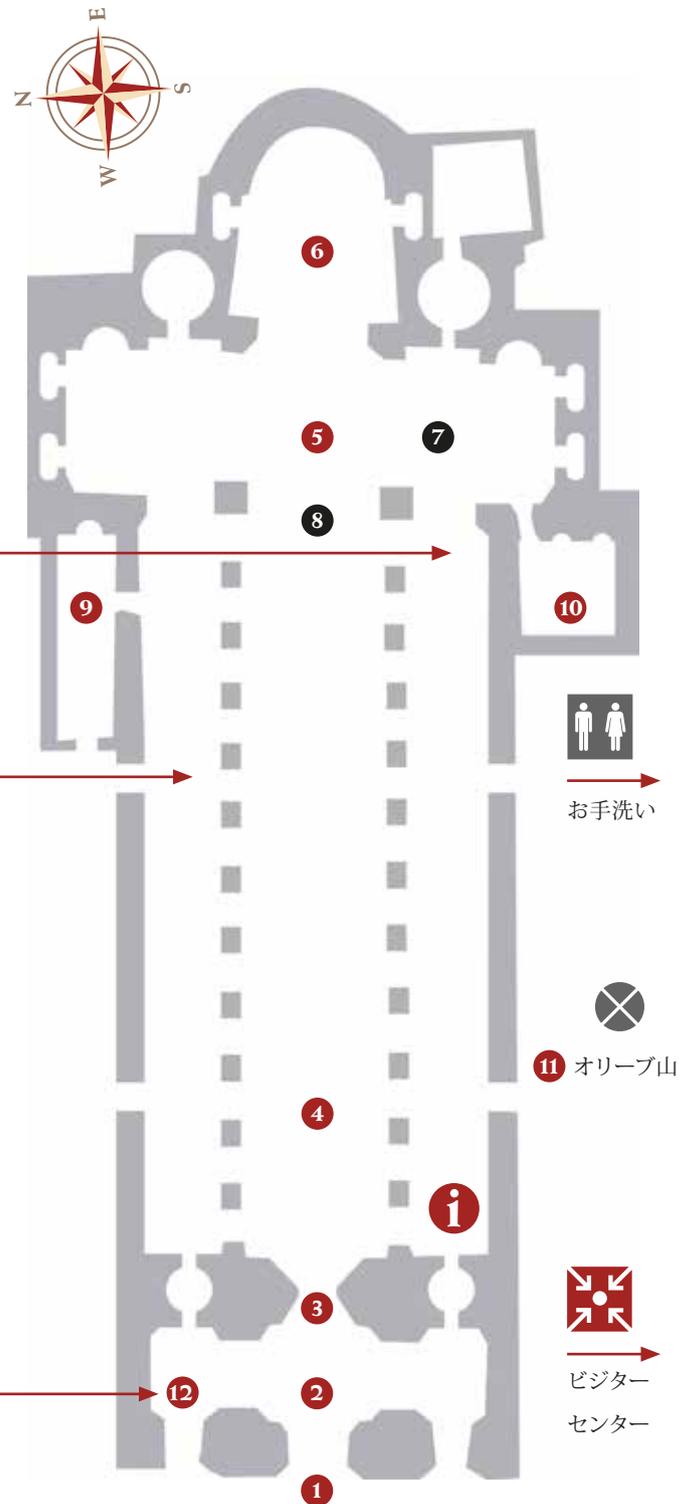
バイエルン王ルートヴィヒ1世は1843年大聖堂内に壁画を描かせることを決め、それをヨハン・バプティスト・シュラウドルフに命じました。1957年から1961年にかけて大聖堂が修復された際、ナザレ派(1846-1853)のフレスコ画の大部分が壊れてなくなりましたが、翼廊の一連の画は残りました。これらは戦う教会(ecclesia militans)に捧げられています。南側の翼廊には、聖ステファノ殉教者と教皇ステファノスの説教のフレスコ画がありました。北側の翼廊には、クレルヴォーの聖ベルナルドゥスが1146年のクリスマスにシュパイヤーで行った十字軍勧誘の説教にまつわる出来事を描いた一連の画がありました。

大聖堂は聖母マリアに捧げられています。聖母の戴冠のフレスコ画はかつてアプスの半円天井に位置し、身廊にある一連の聖母の画の輝く頂点をなしていました。聖母被昇天は教会の大きな**希望**を描いたものです。人間として最初に救済されたマリアと共に、私たちもまた死によって主の栄光へとたどり着くことを願うのです。



## 平面図

- ❶ ファサード (正面入口)
- ❷ 玄関前広間
- ❸ 扉口
- ❹ 身廊
- ❺ クロッシング (中央交差部)
- ❻ クワイヤ (内陣) とアプス
- ❼ クリプタ (地下聖堂)
- ❽ 墓所
- ❾ アフラ礼拝堂 (注: 見学不可)
- ❿ 二段の礼拝堂
- ⓫ オリーブ山
- ⓬ 皇帝の広間と塔への入口



## またのご来訪をお待ちしています

教会音楽コンサートやミサにもぜひお越しください。静かなお祈りをしたい方のためにはアフラ礼拝堂があります。別の時間にカタリーナ礼拝堂でゆるしの秘跡（懺悔）をお受けになることもできます。公開時間・懺悔時間・ミサ・コンサート日時等詳細は

[www.dom-zu-speyer.de](http://www.dom-zu-speyer.de)にてご確認ください。南側庭園にある大聖堂ビジターセンターでは入場券・音声ガイド・関連書籍・お土産もお求めいただけます。世界中からお越しになる皆さんにユネスコ世界遺産である私たちの大聖堂をより深く知っていただき、その訪問がより素晴らしいものとなるよう、ガイド付きツアーもどうぞご利用ください。お問合せ先住所：[domfuehrungen@dom-zu-speyer.de](mailto:domfuehrungen@dom-zu-speyer.de)

[dom-zu-speyer.de](http://dom-zu-speyer.de)



App iOS



App Android



プファルツ歴史博物館内の大聖堂宝物館へもお越しください

ザーリア朝皇帝の副葬品、また貴重な聖具・祭服等が展示されています。大聖堂から徒歩数分です。

[www.museum.speyer.de](http://www.museum.speyer.de)

### 発行者・著作権について：

文： 司教総代理 Dr. Franz Jung  
発行者： 大聖堂参事会、大聖堂管理責任者  
図版：  
1-3, 6, 7, 13, 14 頁 GDKE州博物館, Ursula Rudischer  
12 頁 Klaus Bednorz  
14 頁 (上) Andreas Lechtape  
15 頁 Peter Drach  
その他の図版 Klaus Landry  
全ての図版の著作権はシュパイヤー大聖堂参事会に帰属します  
レイアウト： forte Kommunikation und Consulting GmbH  
[www.forte-kommunikation.de](http://www.forte-kommunikation.de)  
印刷： Englam Partner GmbH & Co. KG  
[www.englam.de](http://www.englam.de)  
言語： 日本語 (Japanisch) DS-16-1573/1-2017